

■病害虫異常発生時の緊急防除（随時防除）■

	対象病害虫	防除時期	防除農薬名	使用時期		10a当たり散布量	防 除 時 の 注 意
病 害	葉いもち 穂いもち	6月下旬～出穂前 出穂後～	ブラシン粉剤D L	収穫7日前まで （2回以内）		3～4kg	・発生を確認すれば直ちに散布を行い、被害拡大を防ぐ
			ブラシンフロアブル			60～150ℓ (1,000倍)	
	紋枯病	穂ばらみ期 早生：7月上旬 中生：7月中～下旬 晩生：7月下旬	バリダシン粉剤D L	収穫14日前まで （5回以内）		3～4kg	・穂ばらみ期に病斑が見られたら緊急防除を実施する ・前年に多発したほ場（特にてんこもりは注意する）や、葉色が濃いほ場では発生しやすい
			バリダシン液剤5			60～150ℓ (1,000倍)	
	稲こうじ病	穂ばらみ期 早生：7月上旬 中生：7月中～下旬 晩生：7月下旬	Z ボルドー粉剤D L	出穂10日前まで		3～4kg	必ず出穂10日前（コシヒカリの場合：7月20日頃）までに散布する ・例年多発しているほ場は必ず散布する
			トライフロアブル	収穫14日前まで （2回以内）		60～150ℓ(1000倍) 25ℓ(250倍)	出穂前の稲こうじを予防、治療する薬のため、ほ場の状態を確認し適期防除を実施する ・希釈倍率250倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる少量散布装置を使用する
虫 害	イネミズゾウムシ	5月中旬～6月中旬	なげこみトレボン	イネ5.0葉期以降 収穫21日前まで （3回以内）		4～6個 (200～300ml)	・内溶液が、茎葉に直接付着すると薬害を生ずるので、水溶性容器のまま田水面に投げ込む（濡れた手で触らない） ・藻、ウキクサ等が多数浮遊している水田や、活着不良または軟弱徒長の場合には薬害を生ずることがあるので使用を避ける
	イネドロオイムシ	6月上旬～6月中旬					
	ニカメイチュウ	第一世代： 6月中旬～7月下旬	トレボン粉剤D L	収穫7日前まで （3回以内）		3～4kg	・イネアオムシは山際等で多発しやすい ・イネツトムシ及びコブノメイガは遅植で葉色の濃いほ場では多発しやすい ・イナゴ類は若齢幼虫期に防除を実施する
	イナゴ類（若齢）	6月下旬～7月上旬					
	イネアオムシ イネツトムシ コブノメイガ	7月下旬～8月上旬	トレボン乳剤	収穫14日前まで （3回以内）		60～150ℓ (2,000倍)	
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ						
	カメムシ類	7月下旬～8月上旬 穂揃期～傾穂期	キラップ粉剤D L	収穫14日前まで （2回以内）		3～4kg	・基本防除後、カメムシ類等が多発した場合に、3回目の防除を実施する

■無人航空機での防除（随時防除）■

	対象病害虫	防除時期	防除農薬名	使用時期		10a当たり散布量	防 除 時 の 注 意
病 害	葉いもち 穂いもち	6月下旬～出穂前 出穂後～	ブラシンフロアブル	収穫7日前まで （2回以内）		0.8ℓ (8倍)	・発生を確認すれば直ちに散布を行い、被害拡大を防ぐ
	稲こうじ病	穂ばらみ期 早生：7月上旬 中生：7月中～下旬 晩生：7月下旬	トライフロアブル	収穫14日前まで （2回以内）		0.8ℓ (8倍)	必ず出穂10日前（コシヒカリの場合：7月20日頃）までに散布する ・例年多発しているほ場は必ず散布する
	紋枯病		バリダシンエアー	収穫14日前まで （5回以内）			・穂ばらみ期に病斑が見られたら緊急防除を実施する ・前年に多発したほ場（特にてんこもりは注意する）や、葉色が濃いほ場では発生しやすい
虫 害	イナゴ類（若齢）	6月下旬～7月上旬	トレボンエアー	収穫14日前まで （3回以内）		0.8ℓ (8倍)	・空中散布専用薬剤のため、無人航空機以外での散布は行わない ・散布薬液の飛散防止に努める
	コブノメイガ	7月下旬～8月上旬					
	ウンカ類 ツマグロヨコバイ						
		カメムシ類	7月下旬～8月上旬 穂揃期～傾穂期	キラップフロアブル	収穫14日前まで （2回以内）		0.8ℓ (8倍)

■倒伏軽減剤（随時防除）■

使用の目安（コシヒカリの場合）
・幼穂長1cm頃（出穂18日前）に、草丈が85cm以上で葉色が4.3以上の場合など、倒伏が心配される場合に使用する。

農薬名	使用時期	10 a 当たり散布量	総使用回数		使 用 上 の 注 意
ビビフル粉剤D L	出穂10～5日前	3～4 kg	1 回		・多量散布や重複散布にならないようにする ・風のない時間帯に散布する
ビビフルフロアブル	出穂10～2日前	150ℓ (100ml)	1 回		